

グラフィックアーティスト

大石 暁規

1972年大阪府生まれ。京都市立芸術大学、IAMAS (国際情報科学芸術アカデミー) 卒。国際メディアアートフェスティバル「milia2001」(カンヌ) 新人賞受賞を機に渡欧。デザインスタジオ「TeamChman」(フランス) の勤務を経て、ECAL (スイス州立ローザンヌ美術大学) にて教鞭を執る。フランス在住時代には、現代美術館「Palais de Tokyo」(パリ) の開館記念展でコンテポラリーアート作品を発表。帰国後は、絵本「小さいことにくよくよするな!」(共著、サンマーク出版)、日本ココロ社「ラブ・ボディ」CMアニメーション制作、そして、IAMAS 在学からフランスでの活動を経ての集大成となる展覧会「大石暁規・フティボム」展を山口情報芸術センター (YCAM) にて2005夏に開催。アートやデザインという枠を越えた活動を国際的に展開している。文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品賞など受賞。
http://aki-air.com/



(上)約1年書き溜めた屏風スタイルのスケッチブック
(右)数千体のフティボムを4日間で手がけた

手がけるのは、あくまで「アート」
メディアや技術を融合させて、
「こだわりの表現とインタラクティブ」を
両立させています



ペリー・ファン・パークの巨大ビルアート
(A) モンキーパンツになったフティボム。テキスタイル分野との融合に期待も。
(B) リーフレットは、アムステルダムの子供たちに注目の的でした

「ターニングポイント」

絵が好きで、小さいころは、マンガ家になるのが夢でした。

イマジネーションを呼び起こす洋書の絵本などからも刺激を受け、中学生位でアーティストとしての活躍をイメージするようになり、大学では、油絵を専攻しましたが、コンセプトばかりのコンテンポラリーアートからの「展開」を意識するようになり、展覧会「フティボム」時代にも後押しされ、単なるアートに留まらない自分のスタイルに気付いたのです。またそのころ、自分の絵を見た外国人が興味を示したこと、兄が海外研修でデンマークに渡航したことは、ヨーロッパに目を向ける決定的なモチベーションにつながりました。

動かしていきま

す。たとえば、「上を余白に」とか「点々を多く」など。だから「○○○のカタチに仕上がったからよい」ではなく、「(感性の産物である)構成単位を組み合わせた結果だからよい」と考えます。子供のころから、真っ白な自由帳に細かな絵を一つ一つ書き込み、埋め尽くしていくことがシンプルに好きでした。この屏風スタイルのスケッチブックは、約1年かけて描き溜めたものです。また2つめとして、手がけたものは単なるアートにとどめず、インタラクティブな世界を意識しています。IAMASでは、絵とプログラムを組み合わせて動かすことなど、その拡がりや可能性と出会い、ユーザーがカーソルを合わせた場所に反応して

いまままで止まっていた絵が動き

だしたり、意外なストーリー展開をしたり、随所にインタラクティブな工夫を凝らした、卒業制作作品の、マイクロブランディングで「milia2001」(カンヌ) 新人賞を受賞しています。

「手がけてきたもの、手がけていきたいもの」

私の作品は、欧風と捉える方もいらつしやいますが、現地の方はむしろ、その細かさに日本らしさを感じるようです。ただ、フランス滞在当時、20個以上つくりました。マイクロフィルムは、みな当地のユーモアのエッセンスをこめています。非売品ですが、好きな方が、私のブログからダウンロードされています。

「フティボム」

「フティボム」は、*ビクトプラズマからの評価もいただき、キャラクターに成長していますが、そもそも私は、これらに魂を吹き込む役割ではないと考えています。あくまで、創造物の構成単位です。ただ、そのコスチュームが、イベントで子供たちに受け入れられたり、ベビー用品などに具体化されたときは、ほほえましく、「私」の産物として理解される醍醐味を感じます。また昨年、台湾で成功しました。ペリー・ファン・パークのイベントは、印象深い仕事のひとつになりました。メインビジュアルを担当し、ビル壁面全体をアートで覆いつくすプロジェクトや、2.5m×6mのキャンバスに小さなフティボムを数千体、4日間で描きあげるプロジェクトなど、限られた時間の中、アーティストとして、オリジナルにこだわりの、現地の情熱も感じられました。

これから楽しみなのは、2008年9月に開催されるピクトプラズマNYC・コンフェランスのゲスト・スピーカーに指名されたこと。初となる北米進出へのきっかけとして期待しています。それと、ぜひ「街」や「建築」と融合した仕事を手がけたいと思っています。未来に残る、仕事への興味が強くなっているのです。

*ドイツ・ベルリンを拠点に国際的に活躍するアーティストを紹介するキャラクターデザインブックをシリーズで出版している。